

みやけの風

第 209 号

平成17年(2005年)2月5日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

2005年2月1日、三宅島島民の皆さん、島民の帰島を願うすべての皆さんが待ちに待った『避難指示解除』が、とうとう現実のものとなりました。これまで、本当にいろいろありました。これからも、三宅島災害・東京ボランティア支援センターは、三宅島の皆さまと共にいます。三宅島でも避難先でも、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

**ふるさと三宅島への帰島、待ちに待ったくらしの再建
 わたしたち三宅島支援センターもお手伝いします！**

2005年2月1日、4年半にもわたる全島避難指示が解除されました！

三宅島災害・東京ボランティア支援センターで、この間、多くの支援者に支えられ、島民の方々の応援を微力ながら一生懸命させていただきました。

現在、支援センターでは東京飯田橋と三宅島（伊豆老人福祉館）に事務所を置き、帰島される島民の方々の応援をさせていただきたいと、1月27日には先遣隊を三宅島へ送り、三宅島事務所の開設をはじめました。

2月2日には、島民の方々と一緒に、26名のボランティアが入島し、引越しの荷下ろし、荷ほどき、家屋内の清掃、庭の雑草除去など、簡単な作業ではありますが、一生懸命取り組んでいます。

すでに帰島されている島民の方々からも、「(島に)来てくれたのね」「島のイイところ、たくさん見てって」などと声をかけていただきながら、仲良く交流させていただいております。元島民連絡会事務局長の有馬正美さんも、支援センターの事務局としてお手伝いいただいております。

火山性ガスの危険があるとはいえ、皆さん東京にいるときとは、表情も声も明るくふるさと三宅島に対する思いを語ってくれています。

私たちにできることは小さなことですが、やれることは一生懸命取り組ませていただきたいと思いますので、何でも相談してみてください。支援センターは、いつでもお待ちしております。そして、皆さんを応援しています！

(三宅島災害・東京ボランティア支援センター(三宅島支援センター)三宅島事務所事務局一同)

三宅島支援センター三宅島事務所 三宅島三宅村伊豆1054
 お問い合わせは東京事務所へお気軽に TEL：03-3260-7573

みんなの声

昨年島に戻って理容店を再開している種岡さんから、島の状況をお聞きすることができました。

コンセントを差すと火花が出ます

- ・コンセントを差すと火花が出ますが、驚かないでください。プラグの方を紙やすりで錆を取れば使える可能性が高いようです。
- ・蛍光灯が点きません。

- ・戸車の手入れは大変です。その上、戸車の入手も大変です。CRCは必需品、グリスプレーはもっと良いようです
- ・電気器具の単二、単四などの特殊な電池は入手が大変です。
- ・防毒マスクの吸収缶は多めに持つておくようにしましょう。
- ・帰島当時2週間位は、食事の心配がありました。今でも、当座の菜っ葉が手に入りませんし、高いので、野菜類、根菜類は手荷

物で持ってきた方が良いです。ちなみに、ジャガイモなどは、東京では一袋100円の物が一つで100円です。

- ・現在、食料品が手に入る店としては、正大ストア、長谷川商店、利八屋です。食堂では、サントモ、パロン、飛龍館、ココナツガーデンが開店しています。
- ・滞在型帰島の経験ではわからないことが多いです。器具はあちこちで使えず、すぐ暮らしができないので困りました。
- ・まず、ドライバー、トンカチなどの工具類道具類を調達する必要があります。
- ・エアコン、テレビの件などの電化製品は一瞬大丈夫なのですが、すぐ壊れてしまいます。ほぼ全滅と思った方が賢明です。
- ・電気、ガス、水道、電話などは、今でも、注文してもすぐには来てもらえない状況です。2~3日は来られないと思った方が良いでしょう。
- ・引越しの荷物は、帰島日に到着しない場合が多いです。予定していた日より、1~2日遅れると思っていた方が賢明です。
- ・ポスターを貼る、電話番号を伝えるなど、三宅島支援センターにできることは協力したいです。(タネオカ理容店 種岡 美善)

三宅島帰島支援ボランティア活動報告

午前5時10分、帰島する島民の皆さんと共に、三宅島に入島。先遣隊の出迎えを受け、車輛に分乗し伊豆老人福祉館に設営された三宅島災害・東京ボランティア支援センター三宅島事務所に入りました。活動しているボランティアからの感想をいくつか紹介します。4年半ぶりに帰った空洞化したような家の中で、それでも「島に帰ったぞ」という思いを体全体で現わし、私たちに語りかける沖山さんご夫妻の顔と声が強く印象に残った。港に着くなり、硫黄の臭いでガスとの共存の

三宅島あじさいの里より

【あじさいの里職員募集】

1. 募集人員

| | |
|--------------|-----------|
| 生活相談員 | 計 2名 |
| 保健師または社会福祉士 | 計 1名 |
| 看護師(准看護師でも可) | 計 3名 |
| 介護職員 | 6名(非常勤含む) |
| 調理員 | 非常勤 3名 |

厳しさを実感した。

人の手入れをしない庭が、いかに荒れ果ててしまうか驚いた。寒風の中の待機時間が辛く、もっと時間を有効に使いたい。

浅沼さん宅には奥様は一人で、最初は奥様自身もボランティアに対し、どのように接していいかわからない様子であったが、作業を通し、次第に冗談を交えながら、笑い声や笑顔を見ることが出来た。

八王子別所2丁目三宅島会・お別れ会

去る1月15日、いよいよ間近になった帰島を前に、別所2丁目団地に避難されている島民の皆さんの最後の集いとして、『お別れ会』が催されました。

団地の集会所をお借りして、子どもからお年寄りの方々まで50余名が参加、大妻女子大の干川先生も来られ、会長らからの挨拶に続き、皆さんの乾杯で始まりました。

食事、飲み物、そして、差し入れしていただいたキムチなどをいただきながら、誰も想像し得なかった長い4年5ヶ月にわたる避難生活や、帰島にあたっての思いなど、さまざまな話をお互いに交わされているようでした。身につまされる話も多い中、不安を抱えたままの帰島には相当の覚悟が必要なことを実感しました。

会の半ばには、伊豆の池田左近さんによる島節も披露され、皆さん手拍子を送るといった一場面もありました。

語り尽くせぬ多くの思いが、手拍子を打つ皆さんの胸に去来したのではないのでしょうか。

「お別れ会」とは称されましたが、さまざまな選択をとられる皆さんにとっては、あらゆる意味でのしめくりと、新たなスタートとなる会になったと思います。

(八王子市別所 山本節子)

2. 採用職員試験の時期および〆切
17年2月14日まで

3. 職員採用日
17年4月1日

お問合せ：社会福祉法人あじさいの会
TEL：03-3459-8388~9